

5部

オンデマンド・
スクーリングのご案内



在宅で受講可能な「オンデマンド・スクーリング」を下記の科目について、実施いたします。※いずれか1科目でも2科目以上でも申込みができます。

今回申込みを募る科目＝オンデマンド・スクーリング 4～6期

期	～20	21 ～23	24 ～	科目名	申込締切 (注3)	受講開始	受講料 納入締切	スクーリング 試験提出締切 (注3)	S単位	受講料
4		★	■	福祉行財政と福祉計画	5/20	5/30	6/9	6/28	1	5,000円
	◆			福祉計画法						
				心理系 人格心理学				7/5	2	10,000円
	◆	★	■	社会福祉原論 (職業指導を含む)					2	10,000円
5		★	■	福祉経営論(注1)	6/3	6/13	6/23	7/12	1	5,000円
	◆			福祉施設管理論(注1)						
		★	■	社会福祉援助技術論B					1	5,000円
		★	■	社会福祉援助技術総論				7/19	2	10,000円
				心理系 心理学概論					2	10,000円
6		★	■	社会調査の基礎(注1)	6/17	6/27	7/7	7/26	1	5,000円
	◆			社会福祉援助技術論Ⅱ(注1)						
				心理系 生涯発達心理学					2	10,000円
				特別支援 知的障害者の心理					1	5,000円
	◆	★	■	障害者福祉論(注1)				8/9	2	10,000円
				心理系 特講・福祉心理学11 (受容と排斥の心理学)		7/11	6/30 (注2)		1	7,000円

(注1) 平成24(2012)年度配本の教科書を使用している科目。必要に応じて資料配布します。

(注2) 受講料納入期限が受講開始前となっており、納入があった方のみ受講が可能となっております。

(注3) 締切日の正午必着。締切日後1～3日間は必ずメールをチェックしてください(不備の場合連絡します)。

◆印＝平成20年度以前入学者を受講対象とするスクーリング

★印＝平成21～23年度入学者を受講対象とするスクーリング

■印＝平成24年度入学者を受講対象とするスクーリング

※オンデマンド・スクーリング申込・受講・単位修得方法やTFUオンデマンド使用方法の詳細は『学習の手引き』10章、概要は2013版 p. 11, 2009-2011★版および2002-2008◆版 p. 9 に記載がございます。必ずご理解いただいた上で受講申込みを行ってください。

オンデマンド・スクーリング試験合格者に対し、結果ハガキ発送日から約3カ月間、講義動画を再配信いたします。再配信期限は下記のとおりとさせていただきます。

【4月～9月開講分】

期	試験結果発送予定	再配信期限
オンデマンド1	5月下旬	8/31
オンデマンド2	6月下旬	9/30
オンデマンド3	7月中旬	10/31
オンデマンド4	7月下旬	
オンデマンド5	8月中旬	11/30
オンデマンド6	8月下旬	
オンデマンド7	9月中旬	12/31
オンデマンド8	9月下旬	
オンデマンド9	9月下旬	
オンデマンド10	10月中旬	1/31

スクリーニング・アンケートから(3)

●公的扶助論

- ・日本の世の中が感じている生活保護のイメージがよくない。物事を一方向からのみ見ていたり、テレビなどの報道に振り回されていたら、問題の本質を見落としてしまう。不正受給、孤独死など1つに着目し、騒ぎ立てるのではなく、生活保護の問題点を広い視野でみなければならぬと感じた。

●心理学概論

- ・経験ではなく理論を学びたくて通信を始めたが、理論を自分の仕事や日常生活に当てはめて逆に考えてみると新しい気づきや疑問が生じてきて、この年齢になって心理学を学ぶことの楽しさを感じました。
- ・心理学は生活の中で使えることが多い。すでに使っているものも含め、生活に活かして生きたい。心理学を学び、悩んでいる人を助けたいし、助けられる学問だと感じました。誰かだけではなく、自分自身もセルフコントロールできると感じて心理学を学んでいます。

●福祉機器論

- ・福祉用具の意識が変わった。今まで援助者が便利である、支援しやすいことが、利用者にとっても有益であることを信じて疑わなかったが、福祉用具が障害を有している人にとってどうなのかという点が大切という話を聞き、そこまでの意識がなかったことに気付かせていただいた。
- ・事例の多さに驚き、すごい！と思いました。先生に巡り合った高齢者の皆さんは本当に幸せだと思いました。利用者の安全を守り、生活支援を行う場合、まず自分自身の健康・安全管理が重要であること、「介護する」意識から「支援する」役割が担えるよう意識改革が必要であり、福祉用具の活用が重要であること。利用者の不自由な部分をサポートし、自立的生活を楽しむよう支援することが大切であることを学んだ。

●障害者福祉論

- ・「障害」という言葉を何げなく使っていました。普段の生活の中で気付かないことが多いのだなあと感じさせられました。みんなが楽しく、安心して暮らせる社会になっていかなければならぬと感じました。

※ p. 20・28にも掲載しております。